一　宮　町

まち・ひと・しごと創生

総合戦略

平成２７年１０月

一　宮　町

目次

１．一宮町の現状と地方創生における考え方 ..... － 1 －
（1）一宮町の現状 ..... － 1 －
（2）一宮町の特徴 ..... － 1 －
（3）一宮町まち・ひと・しごと創生人口ビジョンを踏まえた戦略の目的 ..... － 2 －
２．国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関係 ..... － 3 －
（1）基本的な考え方と政策５原則 ..... － 3 －
（2）４つの基本目標 ..... － 3 －
３．一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけとＰＤＣＡサイクル ..... － 6 －
（1）一宮町総合計画等との関係 ..... － 6 －
（2）一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定期間 ..... － 6 －
（3）一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略の５つの柱 ..... － 6 －
（4）ＰＤＣＡサイクルの確立 ..... － 8 －
４．施策と重要業績評価指標 ..... － 9 －
（1）一宮サーフストリート構想 ..... － 9 －
（2）都市軸の整備 ..... － 11 －
（3）雇用創出と事業創出 ..... － 13 －
（4）子育て支援と個性ある教育の推進 ..... － 15 －
（5）シティープロモーション ..... － 18 －
５．少子高齢化に対する主な既存事業 ..... － 20 －
（1）高齢者福祉 ..... － 20 －
（2）子育て支援 ..... － 20 －

１．一宮町の現状と地方創生における考え方

（１）一宮町の現状

本町は、広い海と緑の里山に囲まれた豊かな自然環境が魅力です。東京駅からＪＲで６０分という交通の利便性と安価な住宅の存在によって本町への転入者が多く、人口は増加を続けています。転入者の多くは、本町の海岸線に広がるサーフポイントとライフスタイルに魅せられたサーファーです。本町の人口政策にとってサーファーは欠かすことのできない要因となっています。

本町の人口は、高齢化が進み生産年齢人口は減少していますが、出生数が安定しており、ファミリー層の移住も多いことから、年少人口は増加しています。

しかし、２０１０（平成２２）年に１２，０３４人（平成２２年国勢調査）である人口が、国立社会保障人口問題研究所の推計によると２０４０（平成５２）年には１０，６９３人になると予測され、人口減少は避けられないと考えられており、今後の人口減少対策は不可避の現状です。

（２）一宮町の特徴

本町は、千葉県の東部でゆるやかに弧を描く九十九里浜の南部に位置し、東に太平洋の黒潮洗う美しい砂浜、西に丘陵台地をひかえた、風光明媚で気候温暖な地域です。総面積は、２２．９７平方キロメートルで、その大半を肥沃な田や畑、山林が占めており四季を通して、美しい姿を見せています。

上総一宮１万３０００石の城下町として栄えた歴史があり、日本一といわれるガラス温室団地等、ハウス栽培を中心としながらトマト・メロン・梨の産地（長生ブランド）として農業を基幹産業としています。特に、トマトは日本でも有数の生産地です。現在、若い農業者による生産・流通面での新しい取り組みが始まっており、本町の農業を支えています。

緑と海と太陽に恵まれた自然条件により、東京近郊屈指のリゾート地として多くの観光客を集めるだけでなく、近年は、国内屈指のサーフポイントがあることから、多くのサーファーが訪れています。県道３０号線は北の九十九里浜、南の大原、御宿に続く中間の地点でもあり、年間のサーファー来訪者は約６０万人になります。

また、上総国一宮である玉前神社を中心に、伝統ある文化・歴史が守られており、１２００年以上続く上総十二社祭は非常に有名で、各地区から住民が集い、町外からも多くの観光客が訪れます。

そして、ＪＲ上総一ノ宮駅は東京駅からＪＲ特急で直通約６０分、快速電車で直通９０分という利便性から、都心への通勤圏として発展する一方、ウミガメの産卵地である一宮海岸等、非常に豊かな自然環境に恵まれながら、都市とのつながりを保持していることも大きな魅力となっています。

大規模開発が進んでいないことが、自然環境の維持につながっており、近接する海、山の自然な景観をどちらも楽しめることが移住先として人気の理由となっています。

（３）一宮町まち・ひと・しごと創生人口ビジョンを踏まえた戦略の目的

本町は、国内屈指のサーフポイントがあることを背景に、若いサーファーの移住が多く、毎年人口比の4－5％の転入者がいます。社会増が自然減を上回り、全国の自治体の多くが人口減少局面に突入している中、人口増加傾向にある本町は極めて稀なケースと言えます。

本町の移住者に支持されている要素を洗い出し、それを強化し、足りない部分を補う等、現状に即した移住促進施策や転出抑制施策を実施することで、子育て世代の人口の厚みを増やし、人口の維持を目指します。

2. 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関係

（１）基本的な考え方と政策５原則

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は人口減少と地域経済の縮小という喫緊の課題に対し、東京一極集中の是正、出生率の改善、地域の特性に即した地域課題の解決を図りながら、しごとの創生、ひとの創生、まちの創生を確立させて、持続可能な社会を目指すことです。

その中心となる政策５原則が、「自立性」「将来性」「地域性」「直接性」「結果重視」です。

① **自立性**　構造的な問題に対処して、個人、事業者、公共団体等が自立する
② **将来性**　自主的、主体的に前向きに取り組む施策を実施していく
③ **地域性**　地域の実態にあった施策を実施していく
④ **直接性**　効果的な成果を上げるため、施策は直接的かつ集中的に実施する
⑤ **結果重視**　PDCAサイクルを確立させ、具体的な目標を設定し、効果検証と改善を実施する

（２）４つの基本目標

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「① 地方における安定した雇用を創出する」「② 地方への新しい人の流れをつくる」「③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「④ 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」という４つの基本目標を掲げています。本町では、この基本目標を踏襲して、それぞれの課題と数値目標を整理しました。

①　地方における安定した雇用を創出する

本町の基幹産業である農業をより一層強くすることで雇用の創出を実現します。また、企業の保養所が数多く存在し、海水浴やスポーツ体験に多くの観光客が来訪しています。この観光客やサーファー等が地元商店街や飲食店、体験スクールを利用することで、地域内消費を増加させるとともに、地元商店街の空き店舗や古い商家や蔵等のリノベーションを行い、新たな店舗の開業を促し、観光産業からも雇用創出を図ります。合わせて、まちづくり会社を設置し、新たな産業の育成や新たな仕事の創造を図り、雇用を確保します。

■重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
就業人口	５，５４６人 (平成２２年)	５，８００人

資料：平成２２年　国勢調査

※重要業績評価指標（ＫＰＩ：キーパフォーマンスインジケーター）とは：目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

②　地方への新しい人の流れをつくる

サーファーやその同行者等の訪問者の滞留時間を増やし、回遊性を高めるために、商業店舗や飲食店等の魅力向上、交流施設の強化等を図ります。合わせて、スポーツ・レジャー分野だけではなく、住宅、子育て支援等生活全般の情報を提供し、海辺のライフスタイルをイメージさせることで、移住や定住を促進します。

■重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
観光客入り込み数	６９５，７３６人 (平成２６年)	８００，０００人
宿泊者数	４３，７０６人 (平成２６年)	６０，０００人

資料：平成２６年　千葉県観光客入込数調査

③　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

子育てに関する相談窓口として、地域子育て支援拠点の設置や子育てコミュニティの支援等を積極的に行い、安心して子どもを産み育て、また、若い世代が結婚・妊娠・出産・育児に対し、より前向きに考えることができるよう、子育て支援を充実させます。

同時に、本町で育ったことに誇りを持てるよう、地域を知り、豊かな自然を体験できる歴史・文化・郷土教育を進め、郷土愛を醸成します。

■重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
合計特殊出生率	１．２８人 (平成２５年)	１．４９人
未婚率（２０～３０代)	５１．１％ (平成２２年)	４３．１％
転出者数	４９２人 (平成２６年)	４５０人
転入者数	５５９人 (平成２６年)	６００人

資料：合計特殊出生率　平成２５年　千葉県厚生統計調査
未婚率　平成２２年　国勢調査
転出者数・転入者数　平成２６年　住民基本台帳

④　時代に合った地域をつくり安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

本町は、上総国一宮である玉前神社やＪＲ上総一ノ宮駅を中心として伝統ある文化を継承してきました。特に、駅の西口エリアは本町のルーツとして、歴史や文化を保全し、それにより昔からの住んでいる住民のライフスタイルを想像させるとともに、古くから伝わる伝統行事や祭事を復興します。

また、本町の海岸は国内屈指のサーフポイントであり、多くのサーファーが本町を訪れ、移住者が増えている要因ともなっています。この環境を維持し、さらに魅力あるまちとするために、サーフィンセンターを設置し、サーファーを中心とした新しいつながり、ライフスタイルを創造していきます。

同時に、駅の西口エリアや海岸部双方の文化、ライフスタイルを子育てや行事、祭事といった共通のコミュニティを通じてお互いの多様な暮らしを理解し合い、新たなまちの良さを創造していくことで、地域のつながりを強めます。

■重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
20－39歳で 本町に10年以上住んでいる割合	５３．４％ (平成２７年)	６０％

資料：　平成２７年　地方版総合戦略アンケート調査

３. 一宮町まち･ひと･しごと創生総合戦略の位置づけとPDCAサイクル

（１）一宮町総合計画等との関係

一宮町総合計画に定められた事業分野の中から、まち・ひと・しごと創生法における基本目標に関する箇所を重点施策とし、再度評価検証して策定したものを一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）として実施していきます。

（２）一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定期間

総合戦略は、平成２７年度から平成３１年度までの５カ年計画とします。ただし、５カ年期間中も確立されたＰＤＣＡサイクルをもとに、毎年度、効果検証して見直しを図るものとします。なお、総合戦略に記載する具体的な事業は、まち・ひと・しごと創生法の趣旨に基づき、今後、本町が独自に行っていく新規事業を記載対象とします。

（３）一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略の５つの柱

総合戦略は、国の４つの基本目標を本町の実情に合わせた５つの柱を立て、推進します。

①　サーフストリート構想

海岸から県道３０号線に沿ったエリアをサーフストリートとして位置付けます。このエリアに住民とサーファーやその同行者、保養所等の宿泊客、観光客が共に出会い、交流を育むための拠点となるサーフィンセンターを設置します。この拠点を核として、サーフストリートをブランディングし、サーファーやその同行者がより町を楽しめるようにします。

また、官民連携による良好な住宅環境を整え、サーファーが住み、暮らし、集まる拠点エリアに育てます。

②　都市軸の整備

ＪＲ上総一ノ宮駅西側のエリアは古くからコンパクトに機能が集中しています。その中心市街地としての機能を強化し、サーフポイントとして注目を浴び、賑わいを見せている駅東側との双方の特色を活かすために、町の東西をつなぐ駅を中心に都市軸を整備し、町全体の活性化を図ります。

③　雇用創出と事業創出

本町の基幹産業である農業の構造改革を進め、雇用の創出を図り、既存企業の競争力を高めることで雇用を安定させます。また、社会構造の変化に伴う課題が大きくなることから、その解決手法をコミュニティビジネス化し、事業の創出を進めます。

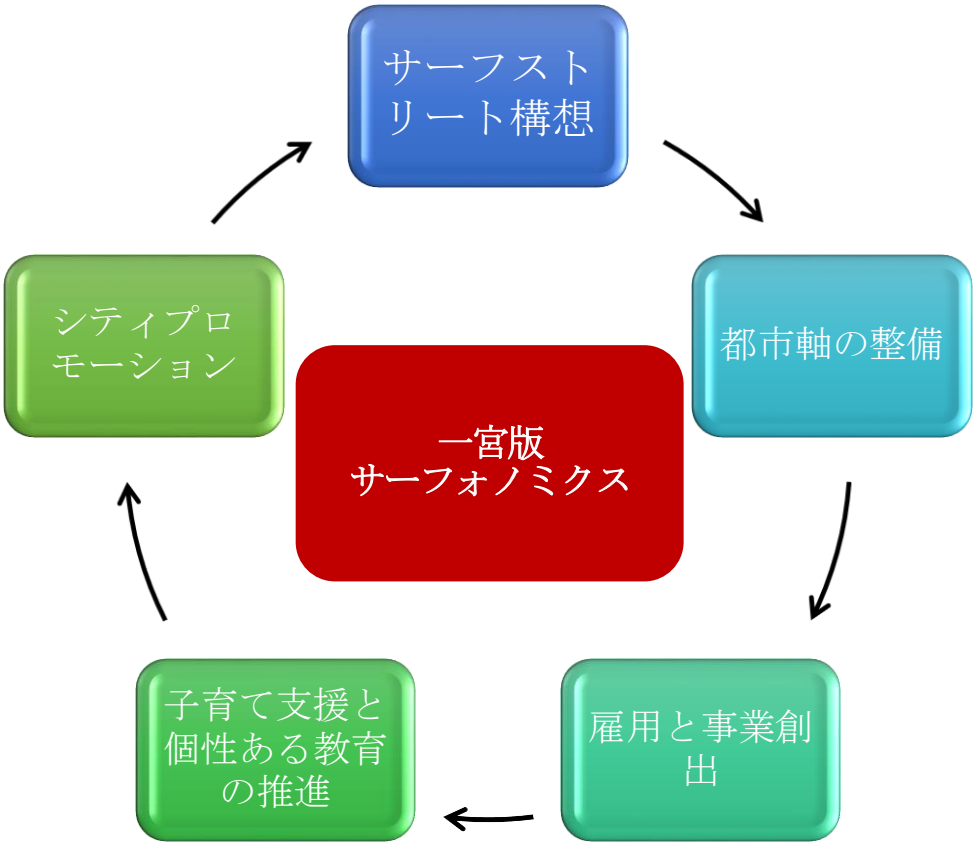
④　子育て支援と個性ある教育の推進

共働き世帯をはじめ、すべての子育て家庭が安心して子育てをすることができるよう、子育て支援サービスの充実を図ります。また、自主性や社会性等心身健やかな成長や基礎的学力の向上、そして郷土への愛着等、時代にあった先進手法を取り入れながら、様々な体験学習を行い、本町ならではの教育環境の充実を推進します。

⑤　シティープロモーション

本町は、海、山、田畑といった自然の魅力だけでなく、ゴルフ、サーフィン等のスポーツ体験やトマト、梨といった農産品、玉前神社等、多く地域資源が存在しています。この地域資源を、地域内外に効果的に発信、訴求するシティープロモーション事業を推進し、来訪者の増加、投資の増加、移住につなげ、「一宮版サーフォノミクス」の好循環の原動力を生み出します。

以上を総合戦略の５つの柱として位置付け、交流人口の増加、経済の維持・発展、雇用の確保、転入者の増加、転出者の抑制、魅力情報の発信という好循環を生み出し、その仕組みを「一宮版サーフォノミクス」として総合戦略の要とします。



サーフォノミクス（Surfonomics）とは

サーファーが集まることによる経済効果のことを指す言葉です。自然保護と経済振興を両立できるサーフォノミクスはアメリカではすでに研究が始まっています。カリフォルニアでは１回の週末だけで、サーファー１７５万人が１２０億円の出費（ガソリン、飲食、サーフィングッズ等）を行うことが研究の結果明らかになりました。また、スペインのムンダカという人口わずか１，７００人の漁村では、サーフィンに来る観光客の影響で年間５億４，０００万円の経済効果を生み出しています。年間約６０万人のサーファーが本町を来訪していることを考えると、本町でも経済の活性化が期待されます。

本町は、サーフィンの国際大会が開催される等、国内屈指のサーフポイントが存在します。また、トライアスロン大会の開催、体育協会ウォーターマリンスポーツ部の創設等、サーフィンをはじめとしたウォータースポーツ文化が根付いていることに加え、サーフストリートには多くのサーフショップが建ち並び、日本有数のサーファーが集まる町として発展してきました。

一宮版サーフォノミクスとは、こうした背景を軸に、海沿いの文化と豊かな自然環境を思う存分に享受し、ゆとりある住宅環境や働く場を創出することで、町の魅力に磨きをかけ、新たな人たちを呼び込むという好循環を生み出す仕組みです。サーファーが集まることによる直接的な経済効果だけではなく、移住促進、定住、魅力発信という循環型の経済効果を打ち出していく考え方です。

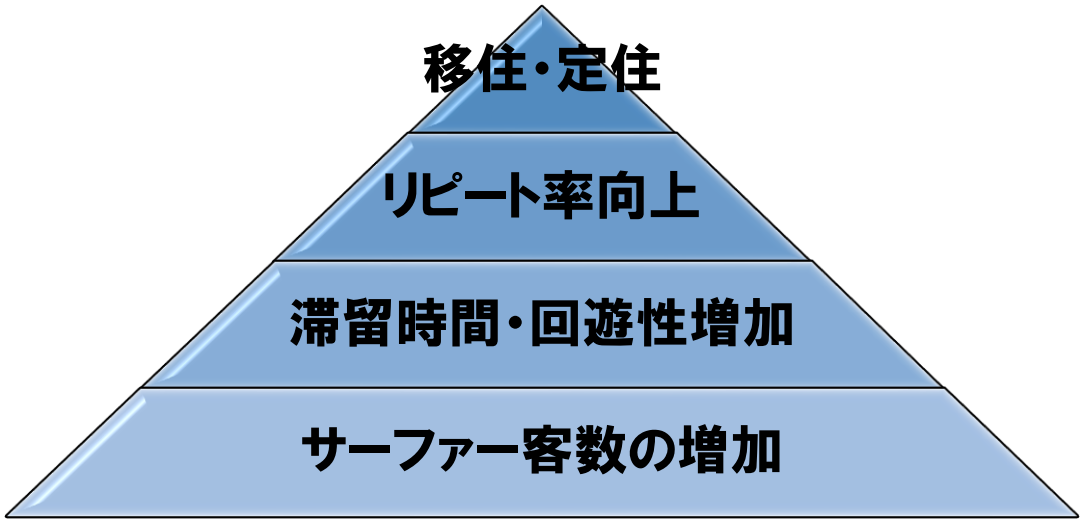
（４）ＰＤＣＡサイクルの確立

総合戦略は、５カ年計画で策定され、毎年度見直しを図ります。本町に設置する推進本部によって計画は策定され（Ｐｌａｎ）、まちづくり推進課を中心とした町役場・民間事業者・ＮＰＯ等市民活動団体によって実行され（Ｄｏ）、外部有識者等で構成された総合戦略評価委員会による検証・評価を行い（Ｃｈｅｃｋ）、その結果、推進本部が必要に応じて総合戦略を改訂し、総合戦略の目的を達成するための取り組みを推進します（Ａｃｔｉｏｎ）。

そのため、毎年度ごとにヒアリング、データの収集を行い、客観的な検証が行えるよう情報を整えます。

4. 施策と重要業績評価指標

（１）一宮サーフストリート構想



（１）－１　基本目標

本町の海岸沿いを走る県道３０号線沿道は、一宮版サーフォノミクスの最重要拠点です。このエリアを「一宮サーフストリート」として位置付け、国内屈指のサーフポイントから、若者に人気の観光地へ発展させることを目指します。

サーファー人口の増加を目的に、小学生を対象としたサーフィン教室を開催します。また、初心者にも安心して海を楽しんでもらうため、プロサーファーによるサーフィン専門のライフガードを配置します。

多くのサーファーに来訪してもらうだけではなく、その滞留時間の増加、町内の回遊性を高め、本町のライフスタイルに触れてもらうことで、移住者、定住者の増大を目指します。

（１）－２　課題

・人口減少に伴い、サーファー人口の減少が懸念される。
・サーフィンに同行する女性や子どもが楽しめる場所がない。
・初心者サーファーの事故が発生している。
・県道３０号線沿いの店舗は、夏と冬で観光客数や収益の差が大きい。
・サーフィン客増加に対応する観光担当職員の人員及び財源の不足。

（１）－３　取り組み策

①　一宮サーフィンセンターの設置

官民連携でサーフィンセンターを設置し、託児所やカフェを併設し、女性や子どもへのサービス向上を図ります。また、プロサーファーのライフガードによる海の安全情報の発信、町内観光情報、飲食店情報の提供を図ります。

②　子供向けサーフィン教室

プロサーファーのライフガードによる小学生を対象としたサーフィン教室を実施します。

③　サーフストリートから駅周辺地域への誘導

商店街の店舗の業態転換や、経営主の変更を促進し、魅力的な商業地域を推進することで、冬場の観光客の減少を克服します。

④　まちづくり会社の設置

本町の商業者や観光業者との意見交換や勉強会を開催し、これからの中心市街地の活性化や一宮版サーフォノミクスをコンセプトに、官民連携でまちづくり会社を設立し、地域課題解決に向けた事業を行うことで、新規事業や雇用を確保します。

⑤　モニタリングハウスの設置

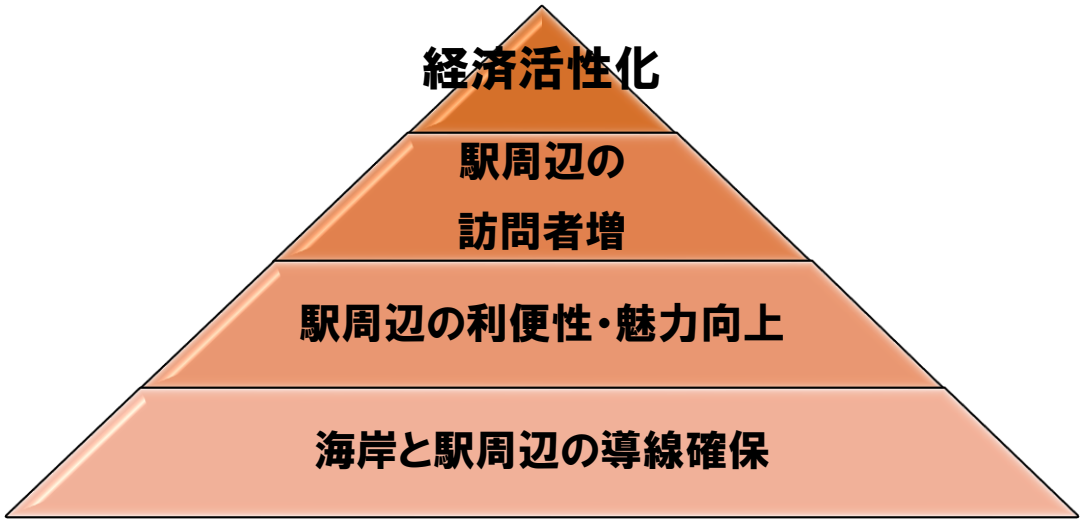
本町のライフスタイルをイメージするために、移住者向けモニタリングハウスを建設し、お試し移住や住宅見学等を実施し、多くの人に本町の住環境の良さを体験してもらうことで、本町への移住を促進します。合わせて、空き家の住宅整備等を行い、移住希望者が円滑に移住できる態勢を整えます。

（１）－４　重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
サーファー客数	５８５，２００人 (平成２６年)	７００，０００人
海水浴客数	２５，０３６人 (平成２６年)	３０，０００人
サーフィンセンター 年間利用者数	０人 整備前	７０，０００人 設置後
モニタリングハウス設置件数	０件 (平成２６年度)	４件

資料：平成２６年　千葉県観光客入込数調査

（２）都市軸の整備



（２）－１　基本目標

ＪＲ上総一ノ宮駅西側は上総国一宮である玉前神社の参道にあたり、古くから商店や公共施設等がコンパクトに集中する中心市街地として賑わってきました。しかし、町役場の駅東側への移転（昭和４２年）、その後の都市計画事業や県道３０号線沿いの商業、観光業の発展、社会環境の変化により、中心市街地の賑わいは次第に失われ、人口比率も駅東側が高くなりました。しかし、中心市街地は町のシンボルとして、まちづくりの中心となるエリアであり、文化・歴史を感じて町民が町への誇りを感じるためのまちづくりの原点です。この国道１２８号線沿いの商業地域と、県道３０号線沿いの観光が盛んな地域の双方の特色を活かし、町全体を活性化するため、中心となるＪＲ上総一ノ宮駅周辺を中心に都市軸の整備を図ります。

（２）－２　課題

・夏季観光客は、県道３０号線沿いに集中し、国道１２８号線方面を周遊することが少ない。
・ホテル等の宿泊客は、町内の海岸利用のほかは、他市町村の観光地を利用している。
・ＪＲ上総一ノ宮駅東口ロータリーに改札口が設置されていない。
・ＪＲ上総一ノ宮駅と海岸を結ぶ主な公共交通機関は民間タクシー会社のみ。
・商店街の後継者不足。
・商店街の空き店舗の増加。

（２）－３　取り組み策

①　駅周辺部とサーフストリートを結ぶ交通導線の整備

電車で本町を訪問するサーファーを増やし、本町での飲食を促す等、中心市街地の賑わいを促進します。環境に配慮しつつ、サーフボードを持ち運べ、好みのサーフポイントへ回遊できるようなレンタカーやレンタサイクル等を導入します。

②　ＪＲ上総一ノ宮駅東口改札の設置

ＪＲ上総一ノ宮駅は、特急わかしおの停車駅として、東京まで特急で６０分、快速で９０分と、通勤通学に利用される等、本町にとって不可欠な存在です。新たに駅の東口に改札を設置し、鉄道駅の利便性を向上させることで、通勤や通学、観光客等、駅の利用者を増やし、駅周辺の賑わいを創出します。

③　駐車場・駐輪場の整備

駅周辺に駐車場・駐輪場を整備し、中心市街地を町民が日常的に利用できるよう促します。また、ＪＲ上総一ノ宮駅始発の快速電車や特急を利用したいと考えている近隣自治体の通勤通学者や車で来訪するサーファーの呼び込みを図ります。

④　駅周辺の景観整備

歩きたくなるまちを目指し、駅周辺の整備を行います。駅周辺は古くから町の中心地であり、まちづくりの原点であったことから、文化、歴史、風格を感じさせる町並みを創出するとともに、伝統的な建物や古くから続く技術、手法等が中心市街地をベースに継続できるように支援します。

⑤　駅周辺商店のブランド化

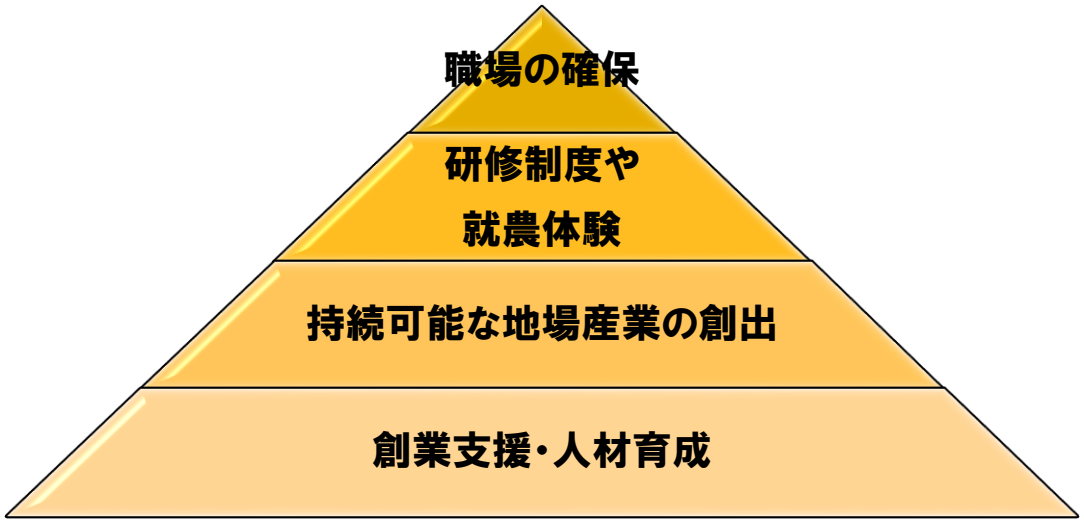
本町の特性を活かした一宮らしさを感じられる商品構成、業態転換も視野に入れた商店街の活性化を外部人材等と協働しながら、子連れの主婦や買い物弱者にも配慮する等、時代に合わせたコンセプトと必要な機能を盛り込むことでブランド価値を高め、中心市街地の活性化を図っていきます。

（２）－４　重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
ＪＲ上総一ノ宮駅の平均乗車人員数	２，９４５人／日 (平成２６年度)	３，２００人／日平均
駅周辺商店のブランド化による 店舗改修件数	１件 (平成２６年度)	５件 （５カ年累計）
新規創業件数	１件 (平成２６年度)	５件 （５カ年累計）

資料：平成２６年度　ＪＲ東日本　各駅の乗車人数

（３）雇用創出と事業創出



（３）－１　基本目標

転入者の増加と転出者の抑制を図るため、安定した働く場と収入を得る機会は必須です。

本町では農業と観光業を基幹産業として競争力を高めます。また、多様な経験や技能を持った移住者による新たな事業や地域課題を解決するための事業を創出し、働く機会の拡大を目指します。

さらに、企業への研修生派遣や就農体験等の機会を増やし、働く場を創出します。

（３）－２　課題

・各産業ともに後継者不足やグローバル競争の中で地域内消費額は低下しており、就業者数も減少している。

・既存産業を維持・成長させつつ、新たな産業・事業を創出し、高齢化と後継者不足解消のため、新たな担い手の確保が必要である。

（３）－３　取り組み策

①　企業の担い手育成・研修生受け入れ

本町の企業で活躍する人材を輩出するため、人材育成や創業支援のセミナーを実施します。

②　農業のＩＣＴ化に向けた創業支援

収量を増加させ、安定的な生産体制を築き、先端のＩＣＴを活用した事業の拡大、農業法人等の創業支援を行い、雇用を促進します。

③　農業者の経営人材育成

競争力の強い農業を牽引するリーダーを育成し、生産だけでなく、市場調査、加工、流通、販売等の経営能力の習得を目標に、競争に勝ち抜く強い産地と人材育成を支援します。

また、国内最先端のＩＣＴを活用した農業生産を実施している本町で、他市町村からの人材

研修を受け入れ、農業の担い手として専門知識を有する農業就業者を育成します。

④　農業の６次産業化と雇用促進

加工、販売等の新たな雇用を創出するため、農業生産品の６次産業化を推進し、一宮ブランドとなる新たな商品開発を支援します。

⑤　女性の仕事応援

女性にとって出産、育児は働き続けることを困難にする大きな要因となっていることから、出産を契機に離職することがないよう保育所の整備を行います。また、女性のための仕事応援セミナーやママフェスの開催、ＩＣＴを活用した子育て情報（健診や予防注射、イベント開催等）の発信等、子育てをしながらいきいきと働く女性やこれから働きたいと思っている女性を応援します。

⑥　社会参加と生きがいづくり

地域で活躍する高齢者が今後も増えていくと予想されることから、高齢者の生きがいを高めるため、地域活動に関する情報提供や交流の場づくりの整備を図ります。

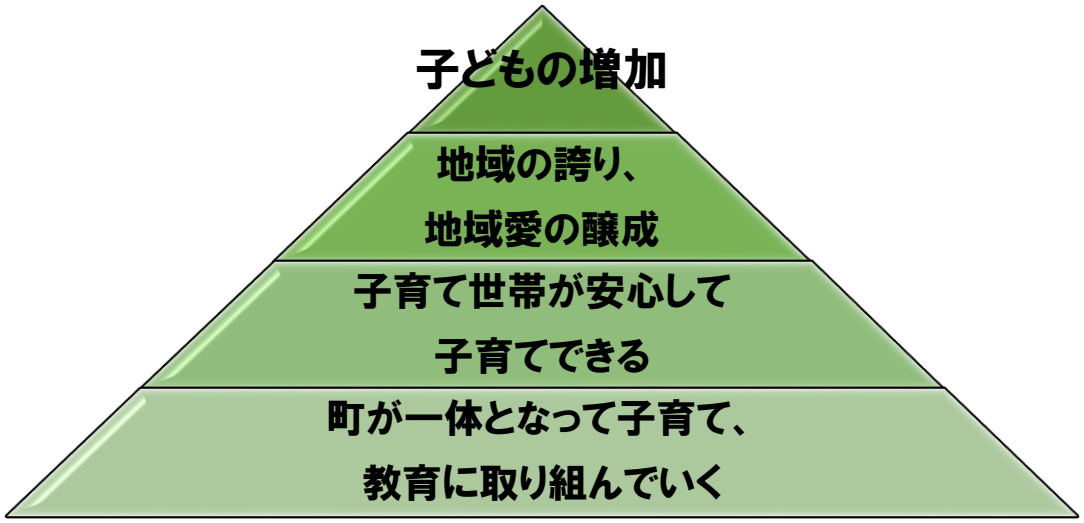
また、高齢者や障害者の自立的な就労･就業の機会を推進します。

（３）－４　重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
全就業者数	５，５４６人 (平成２２年)	５，８００人
農業就業者数	５４７人 (平成２２年)	６５０人
創業セミナー開催 年間回数	０回 (平成２６年度)	３回

資料：平成２２年　国勢調査

（４）子育て支援と個性ある教育の推進



（４）－１　基本目標

■子育て世帯が安心して子育てできる環境

すべての子育て家庭が安心して子育てできるよう、子育て支援サービスの充実を図り、子どもたちの心身健やかな成長を支えるための環境整備を目指します。

■一宮町ならではの教育

将来のＵターンにつなげるため、幼少期から地域の伝統的な祭事や行事に触れ、地域愛を育む教育を行います。小中学校では地元の事を知るための本町独自の教育、時代に合った先進手法を用いた教育を行うことで基礎的な学力の充実を図り、移住者のニーズにも応える教育環境を目指します。

（４）－２　課題

・近年の核家族化、共働き世帯やひとり親世帯の増加により、子どもを安心して預けることのできる預け先や子育てに関する相談の場、子ども・親同士の交流の場等、保護者の多様なニーズが高まっている。

・子育てについて大きな悩みを抱えた保護者もおり、色々な機関が係る児童虐待ケースも増えている。

・子育て世代の転入者の中には、地域のコミュニティに参加することをためらい、本町の伝統的な祭事等を知らない人も多く、本町の伝統を継承していくことが難しくなっている。

（４）－３　取り組み策

①　地域子育て支援拠点の設置

子育て中の親子が集える場所を提供し、子育ての悩みや課題を抱える人たちのサポートを行います。

②　子育てマップの作成

子育て世帯の不安の軽減や利便性向上のため、子育て世帯に必要な情報が書き込まれたマップを作成し、スマートフォン等で簡単に閲覧できるようにします。

③　子育てコミュニティの支援

子育て中のお母さんが育児不安や孤独を感じないよう、遊びや情報交換を通して交流を行っている子育てコミュニティの組織を支援します。

④　保育料第３子無償化の実施

現在の保育料は、同時入所している場合に限り、第２子は半額、第３子は無償としていますが、同時入所していない第３子の無償化を新たに実施することで、保護者の経済的負担を軽減し、世帯における出生数の増加を図ります。

⑤　結婚相談所の設置

結婚支援サービスを行うために官民協力のもと相談所を設置し、婚活パーティー等の婚活支援と合わせて町の情報提供を行い、成婚数を増やすだけでなく本町への定住者や出生数の増加を図ります。

⑥　産科医･助産院の整備促進（広域連携）

不足している産科医・助産師を地域内に安定的に確保するため、長生郡市内に新たに開業する事業主に対し、土地や建物取得、医療設備機材について助成制度を推進します。

⑦　既存公共施設を活かした児童館機能の充実　※

本町には児童館がないため、中央公民館や公立保育所等の施設を活用し、児童館としての機能を高め、地域の子育て環境づくりや児童の居場所づくりを推進します。

⑧　ＩＣＴを活用した一宮町独自の教育

先端の教育手法を活用した本町独自の教育カリキュラムを実施し、教育の効率化、児童の学習意欲の増加を図ります。

⑨　十二社祭り・宮薙行燈まつり等の祭事の賑わい創出

本町で１２００年続く十二社祭りや幻想的で本町らしさを映し出す宮薙行燈まつり等を中心とした伝統的な祭事への参加を促し、多世代交流を通して住民の地域への愛着度を高めます。

⑩　茶あびの合同開催

町が一体となって子育てに取り組むために、子どもを受け入れる行事として本町に長く伝わっている茶あびを、町が主催し、より多くの参加者を募り、地域と子育て世帯の交流を図ります。

⑪　伝統的旧家の保護、活用

本町の中心市街地は古くから商家が集積するエリアであり、現在でも築１００年を越える建築物が残っています。これらの建築物を残すことで、本町の歴史ある文化を継承し、後世に伝える象徴として活用していきます。

⑫　自然との触れ合い

本町はサーフィンだけではなく、地曳網や農業体験等といった海と山の自然や文化を同時に体験することができ、これらの自然との触れ合いを継承し、本町独自の子育てを進めて行きます。また、子どもたちが自然環境の中でも安全に遊べる公園を整備します。

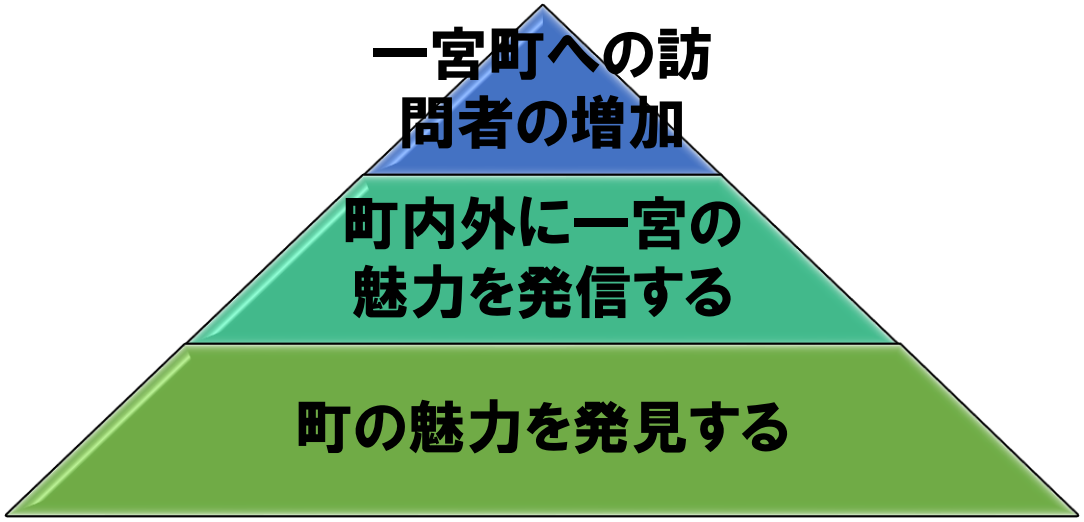
※⑦児童館は児童（児童福祉法上０歳～１８歳未満の子ども）に健全な遊びを与え、その健康を増進し、または情操を豊かにすることを目的として設置される屋内型児童厚生施設。児童館にはその種類によって、集会室、遊戯室、図書室、静養室のほか、育成室、相談室、創作室、パソコン室等が設けられており、専門の指導員（児童の遊びを指導する者、旧児童厚生員）によって季節や地域の実情等に合わせた健全な遊びの指導が行われている。

（４）－４　重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
地域子育て支援拠点施設利用人数	１，０６８人 (平成２６年度)	４，６８０人
子育てママフェス・セミナー等 子育て関連行事の年間開催回数	２回	８回

資料：一宮町　子ども・子育て支援事業計画

（５）シティープロモーション



（５）－１　基本目標

本町の住民が地域の伝統や文化、自然に触れる機会を増やし、自らの町の魅力を知ることで地域の誇りと地域愛を醸成し、地域への愛着度を高めることで、地域再生、観光振興、住民協働等の動きを促進していきます。

また、地域の誇りや地域愛を多様な媒体を使って発信し、認知度の向上、イメージアップを図り、本町への訪問者の増加を目指します。

（５）－２　課題

・移住に関するプロモーションが移住政策の先進市町村に比べ不足している。
・単発のＰＲが多く、複合的な戦略的ＰＲが不足している。
・行政からの情報が多く、一般住民が情報発信する媒体が不足している。
・公的Ｗｅｂページが多言語化されていない。
・長生地域の長生（ながいき）ブランドのイメージが形成されていない。

（５）－３　取り組み策

①　移住マーケティング

移住者を増加させるため、官民が連携してマーケティング戦略のプロジェクトを設置し、本町の情報戦略の中核として、情報発信を推進していきます。

②　メディアとの提携

サーフィン雑誌、移住系雑誌等の編集者の目を通し、定期的な本町の魅力を発信することで、認知度向上とイメージアップを図ります。また、都内近郊市区町村のタウン誌等と提携し、移住情報を積極的かつ戦略的に発信することで移住者の増加を促進します。

③　訪問者向けＷｉ-Ｆｉ観光案内

訪問者がインターネット環境を利用できるよう、ＪＲ上総一ノ宮駅周辺とサーフィンセンターの２拠点にＷｉ−Ｆｉを設置し、同時に多言語による観光案内を配信します。

④　公的Ｗｅｂページの多言語化

本町のサーフポイントではサーフィンの国際大会が開かれる等、海外からの来訪者も増えていることから、英語等の標記を加えることで、海外からの来訪者の一層の誘客を図ります。

⑤　長生（ながいき）ブランド　ブランディング＆マーケティング事業（広域連携）

本町だけではなく、長生郡市に共通して存在する自然、歴史・文化、食、観光地、特産品、産業等の地域資源を長生（ながいき）ブランドとして長生郡市で広域にブランド化することで「付加価値」を創出し、他の地域との差別化を図り、競争力を高めます。

（５）－４重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	現状値	目標値(平成３１年度)
移住相談の件数	３０件 (平成２６年度)	１５０件
公的ホームページの多言語率	０％ (平成２６年度)	３０％

5. 少子高齢化に対する主な既存事業

本町では、以前から少子高齢化を重要課題と捉え、高齢者福祉や子育て支援等の施策に取り組んでいます。総合戦略は、既存事業の効果を考慮した上で策定しています。

（１）高齢者福祉

① 介護予防教室の拡充

年齢を重ねても介護が必要な状態にならないように、生き生きと毎日を過ごせるように、６５歳以上の住民を対象とした介護予防教室を保健センター等で開催しています。

今後は各地域で介護予防推進員を育成し、高齢者が身近な地域の集会所で気楽に、定期的な介護予防や高齢者同士の交流ができるよう教室を拡充し、健康寿命を図ります。

② 地域見守り活動の推進

高齢者人口の増加に伴い、高齢者世帯や独居高齢者に対して、地域の元気な高齢者による認知症サポーターの養成や配食・傾聴サービスを行っています。また、高齢者だけでなく障害者、児童も対象とした見守り活動「地域支援ネットワーク事業」を実施しています。警察・消防・学校をはじめ、町内で活動する事業所等による安否確認をさらに拡充し、高齢者を地域全体で見守ります。

③ 高齢者の社会活動の推進

各地区には元気な高齢者サークルが活動しています。このシルバーパワーがさらに発揮できるよう、文化・体育・福祉・産業活動のための環境整備を図りながら、地域振興に貢献するとともに、生きがいの持てる社会参加を推進します。

（２）子育て支援

① 保育所の定員増や認定こども園の整備

女性の社会進出や子育て世帯の移住が比較的多いことから、本町の保育所は慢性的な定員超過が続いていました。そこで私立保育所の定員を増やし、老朽化が進んでいた保育所を認定こども園として整備する等、子育て環境の向上に力を注いでいます。

② 高校３年生までの医療費助成

平成２６年４月から高校３年生までの医療費助成を行い、子育て世帯の経済的負担を軽減しています。

一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成２７年１０月

一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部
(事務局：まちづくり推進課)

〒299-4396 千葉県長生郡一宮町一宮 2457

電 話：0475-42-2111(代表)

ＦＡＸ：0475-42-2465(代表)